

大エジプト博物館保存修復センター(GEM-CC)プロジェクト

写真と年表でふり返る  
GEM-CCプロジェクトのあゆみ

2008～2016



2003年の小泉・ムバラク首脳会談が起点となり、大エジプト博物館(Grand Egyptian Museum, 以下GEM)建設事業がエジプトの国家プロジェクトとして開始しました。GEMはカイロ近郊にあるギザの3大ピラミッドの北西に、総床面積81,000m<sup>2</sup>の規模を誇る世界最大級の博物館として建設され、10万点のエジプト考古遺物を展示収蔵する計画です。エジプト観光の目玉として、エジプト学のグローバル・センターとして、そして世界有数の文化財保存修復の研究・実践機関となることが期待されています。

「大エジプト博物館保存修復センター(GEM-CC)プロジェクト」は、GEMの開館を見据えて、同センターで働く人材の育成を目的に、第1フェーズ(2008年6月～)と第2フェーズ(2011年7月～2016年3月)の合計8年間にわたって活動が続けてきました。

貴重な遺物の保存修復を行う人材を育成するために、日本中から一流の知見と技術を有する専門家が集められ、研修という形を通じて日本からエジプトへ技術を伝えてきました。ファラオが残した遺物は木、石、金属など様々な素材が使われ、どれも数千年の時を経て損傷や劣化が見られます。遺物への修復技術だけでなく、素材や顔料の分析・診断、有害生物対策、移送・梱包といった分野まで幅広く技術移転しました。研修の講師となった専門家はその数180名超、研修回数は100回以上に及びます。日本とエジプトの文化の違い、保存修復に対する考え方の違いなどから、当初は少し固い態度だったGEM-CCのスタッフたちも、回を重ねていくうちに専門家や日本の技術に信頼を寄せるようになり、8年を経た現在は多くの遺物の修復を自ら手掛け、それらの実績を国際シンポジウムで発表するまでに至っています。

しかし、この間、いつも順調に事業を進められたわけではありません。いわゆる「アラブの春」の民主化要求運動の激化と、その2年半後の政変時の治安悪化により、専門家は2回にわたり国外退避を余儀なくされました。また、エジプト財政が困窮を極める最近においては、GEM-CCの運営も厳しくなっており、スタッフや運営費の維持が課題になってきています。プロジェクトでは、日本・エジプト双方がともに手をとり、これら多くの困難を乗り越えてきました。個人のレベルを超えて協力関係・信頼関係を築けたことこそ、プロジェクトの最大の成果なのかもしれません。

このプロジェクトのあゆみを写真と年表でふり返ってみました。



神を信じよ、だがラクダを繋ぐのを忘れるな (イスラームの教え)



古代エジプトでは、睡蓮を上エジプト(カイロの位置から南)の象徴、パピルスを下エジプト(北のナイルデルタ地帯)の象徴としました。

【保存修復人材育成プログラム】

石材、木材、染織品や皮革、金属やガラスなどなど、様々な素材からなるエジプト考古遺物を適切に修復し、健全な博物館環境の中で保存していくことができるように、20を超えるプログラム(研修、シンポジウムなど)を設定しました。

素材ごとに修復技術を学ぶ研修を設けるとともに、これらに共通して関わる保存修復材料学、診断分析技術などを組み込みました。さらに、IPM(総合的有害生物管理)や収蔵庫管理など、遺物の安全な保存環境を整える予防保存のプログラムを設けました。また、遺物はエジプト各地から集められるため、移送梱包技術も欠かすことはできません。GEM-CCは大きな組織なので、スタッフの労働安全衛生や組織運営の能力向上も大変重要なテーマです。スタッフの国外視察や、学会参加にも積極的な支援を行いました。

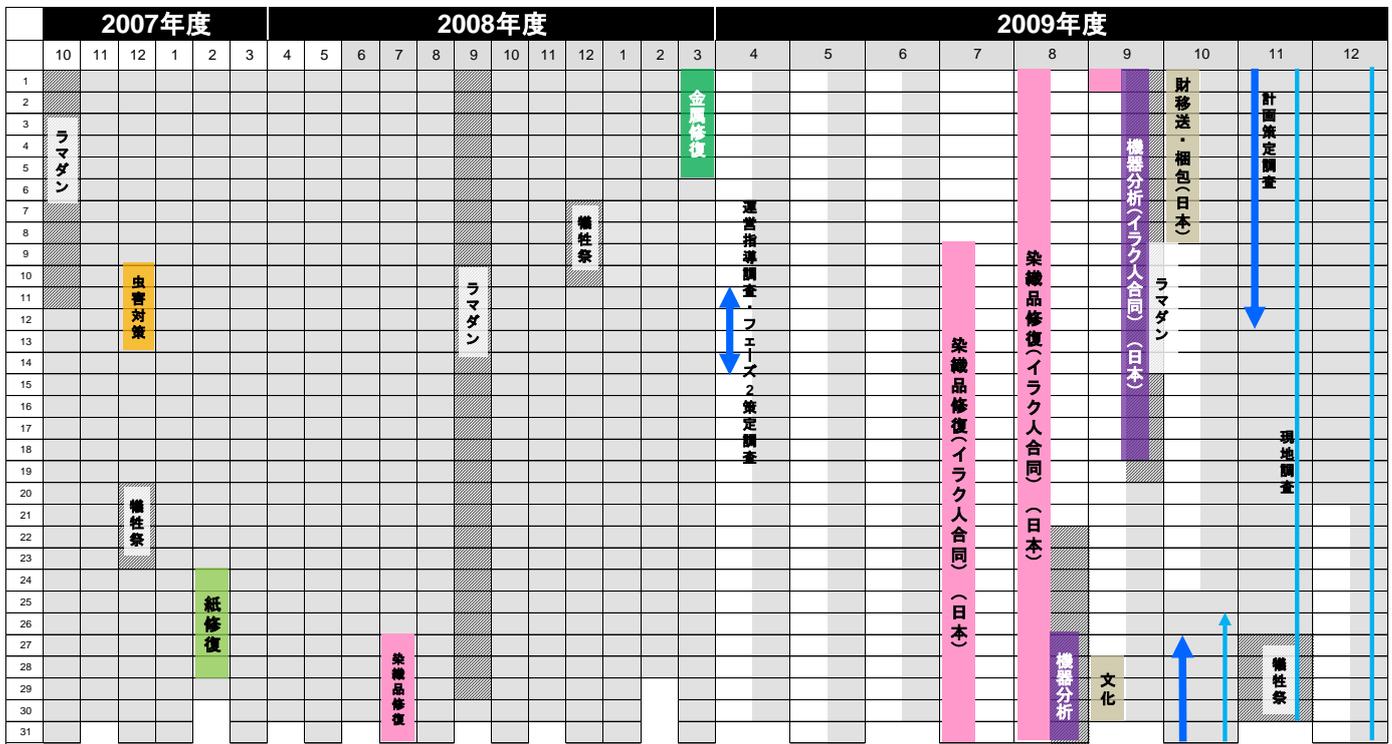
分野	プログラム	
Preventive Conservation 予防保存	労働安全衛生	
	総合的有害生物管理(IPM)	
	殺虫処理	
	微生物管理	
	ミイラと関連資料の予防保存	
	収蔵品管理	
	所内移動・梱包	
Conservation 保存修復	保存修復・科学調査報告書と学術論文	
	彩色文化財	
	染織品(有機物)	
	パピルス	
	木材	
	石材	
	保存修復材料としての和紙	
	無機物(金属)	
Conservation Science 保存科学	保存科学概論	
	保存修復材料学	
	博物館環境科学	
	文化財の診断技術・分析法	
Others その他	国内視察	
	国外視察	
	学位習得プログラム	
	学術研究シンポジウム	

それぞれのプログラムについては、徐々に内容を深化・多様化させて2回から9回の研修を行いました。プログラムに参加した研修員は延べ約2250人にのびりました。



大エジプト博物館保存修復センター(GEM-CC)





★フェーズ1開始 6/22  
 ●中村リーダー着任 ★遺物のデータベース登録作業開始

- □: 白枠内に示したプログラムは日本での実施
- □: 灰色枠内のプログラムは主にエジプトでの実施
- 肩書きは当時のもの



考古遺物の登録作業



金属修復研修



文化財移送・緞色研修



機器分析研修(奈良文化財研究所にて)



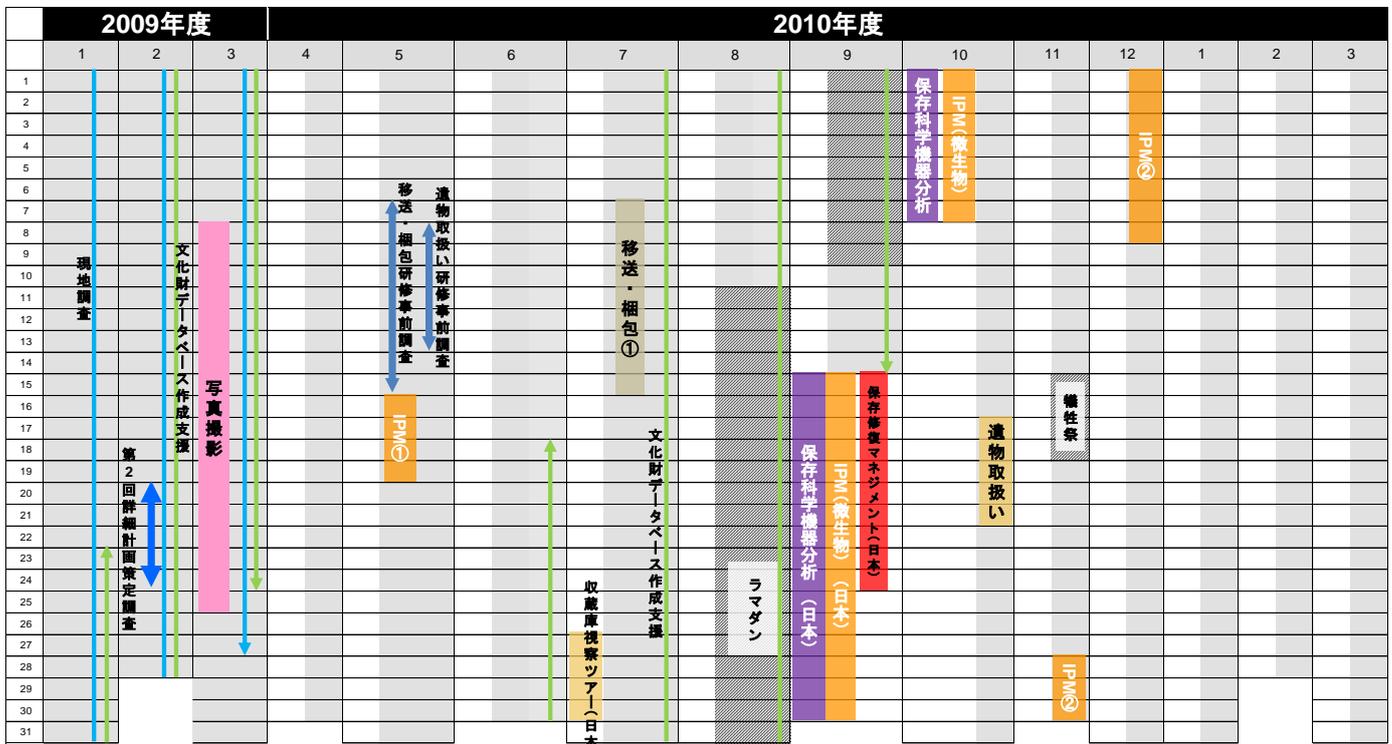
染織品修復研修: 染色実習



計画策定調査ミッションとエジプト側代表者



事業実施機関: 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)  
 相手国機関: エジプト国 考古省 大エジプト博物館  
 国内支援機関: 独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所 (東文研)



★GEM-CC開所式典 6/14  
 ★緒方JICA理事長のプロジェクト訪問

「アラブの春」の大規模デモ発生★  
 プロジェクト専門家の国外退避を開始★  
 ムバラク大統領退任◆  
 考古省設立。ザヒ・ハワス大臣就任◆



写真撮影研修



IPM(総合的有害生物管理)研修



IPM(総合的有害生物管理)研修



詳細計画策定調査団



移送・梱包研修



アレキサンドリア図書館の視察



緒方JICA理事長と石川在エジプト日本国大使のプロジェクト訪問



ツタンカーメンの黄金のマスクの計測作業

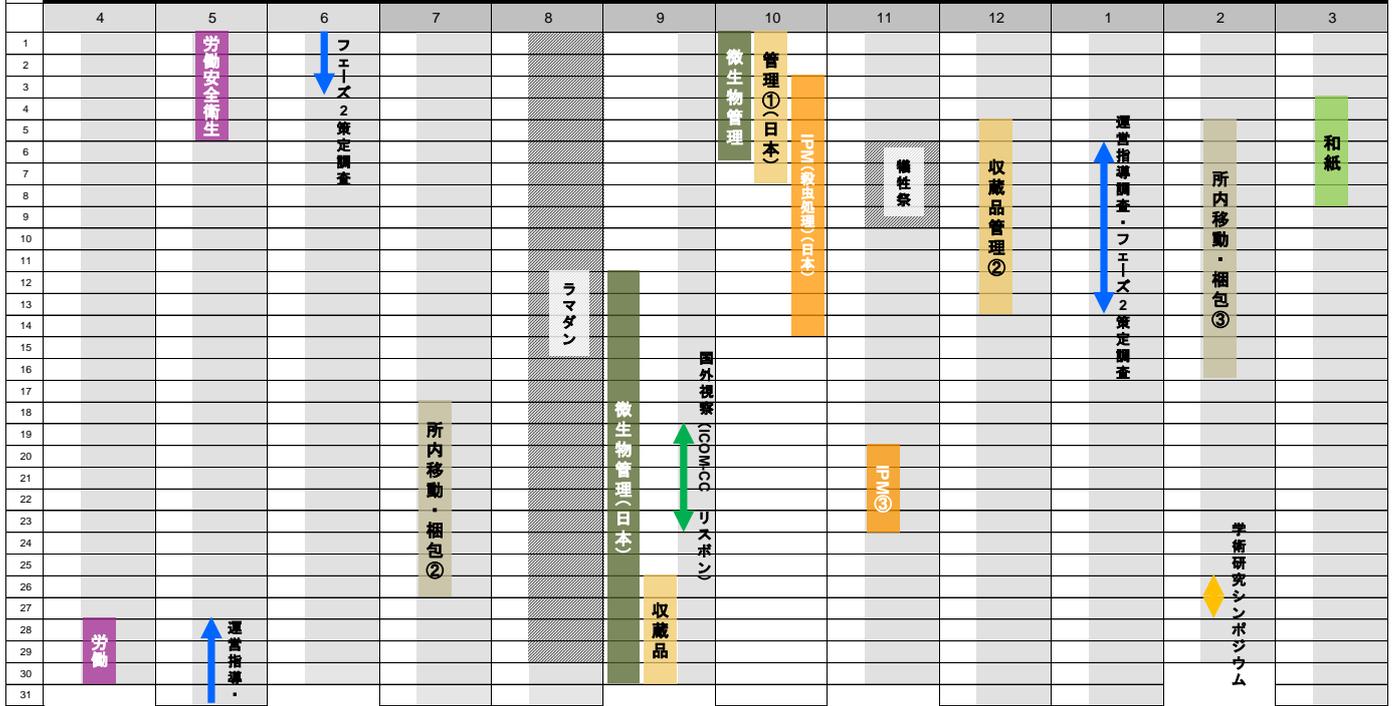


エジプト考古学博物館での調査

遺物の取扱い研修



2011年度



◆イブラヒム考古大臣就任

★7/1 フェーズ2開始

●鈴木リーダー着任

●バシールGEM館長就任  
(ゴネーム館長退任を受けて)

緒方JICA理事長エジプト訪問★  
GEM建設工事が開始★



労働安全衛生研修



IPM(総合的有害生物管理)研修:  
微生物のサンプリング



所内移動・梱包研修: 天井クレーンによる吊り上げ方法



保存修復材料としての和紙研修



微生物管理研修  
(カビ相談センターにて)



微生物管理研修(東文研にて)



収蔵品管理研修: 収蔵棚の付番方法



GEM建設工事の開始:  
イブラヒム考古大臣、奥田在エジプト日本国大使ほか



収蔵品管理研修: 博物館資料の点検方法の実習



IPM(総合的有害生物管理)研修



学術研究シンポジウム:  
川野邊 東文研文化遺産国際協力センター長の基調講演

2012年度												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												
31												

◆モルシ大統領就任



労働安全衛生研修:薬品の管理状況視察



所内移動・梱包研修:門型クレーンの組立て



保存科学概論研修:  
マルチスペクトルイメージングの実習



所内移動・梱包研修:足場設置の訓練



カイロ日本人学校の小学5、6年生と中学生が、GEM建設予定地とGEM-CCの見学に訪れました



染織品研修:走査型電子顕微鏡による観察



収蔵品管理研修:  
収納箱を完成させた研修員



彩色文化財研修:  
彩色レプリカ資料による実習



国外視察研修(シンガポール国立博物館にて)



微生物管理研修(カビ相談センターにて)



学術研究シンポジウム



2013年度

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1		全衛生③										
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												
31												

◆アイサ考古大臣就任

★軍によるクーデター

★プロジェクト専門家国外退避

●岡本リーダー着任

◆イブラヒム考古大臣就任

●ムスタファGEM館長就任



文化財の診断技術・分析法研修



パピルス研修：パピルスの製造実習



第2回合同調整委員会



彩色文化財研修：色彩計測についての実習



染織品研修：  
染織品の収蔵方法



来日した有機物ラボヘッドのモーメンさんと  
東文研国内支援事務局



木材研修(東北芸術工科大学文化財保  
存修復研究センターにて)



初めての雪(秋田)



所内移動・梱包研修：  
遺物の梱包実習



重量品の吊り上げ実習

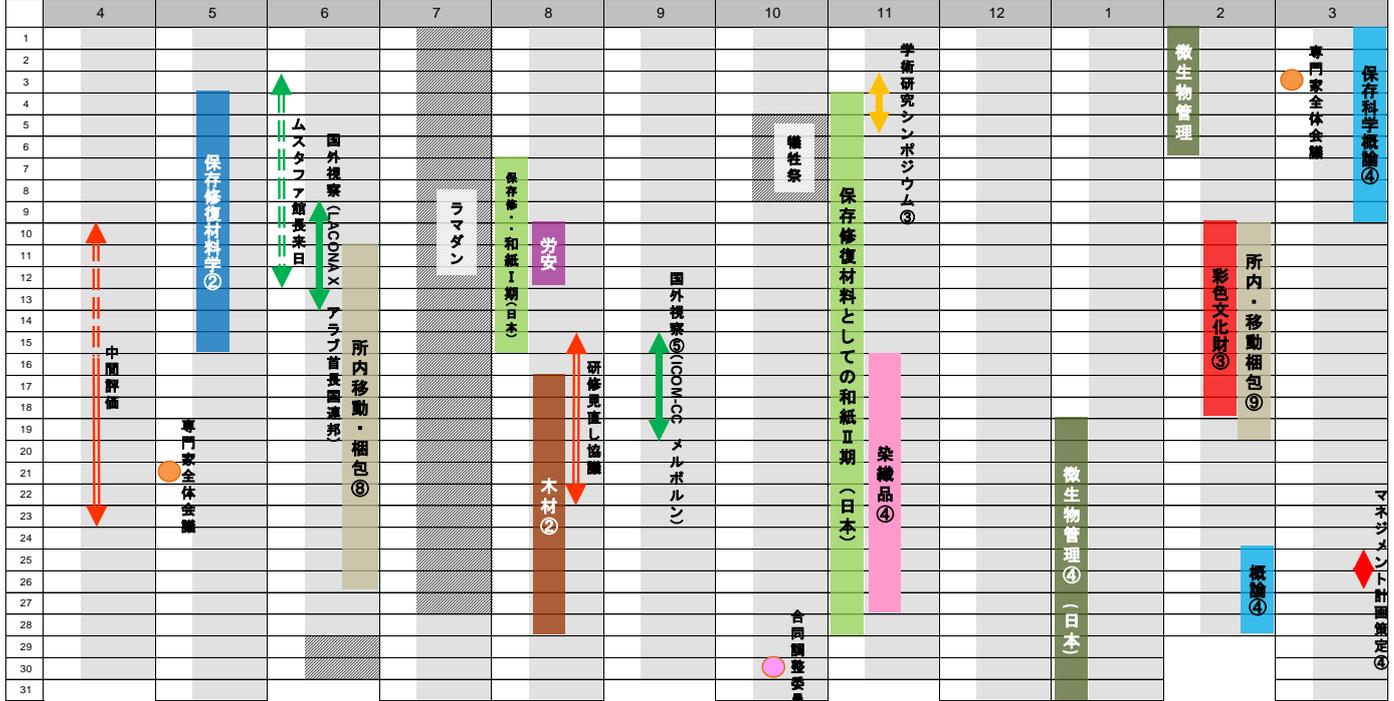


国外視察研修：BUMA-8で来日した無機物ラボの皆さんと



微生物管理研修：微生物被害遺物の取り扱い(カビ  
相談センターにて)

2014年度



◆シーシー大統領就任 ●永田リーダー着任  
 ◆ダマティ考古大臣就任  
 ●タレクGEM館長就任  
 ★安倍総理のGEM訪問



保存修復材料学研修:修復事例の比較検討



労働安全衛生研修:緊急避難訓練の様子



保存科学概論研修:遺物の写真撮影技術



プロジェクト中間評価の調印式



和紙研修:糊の作成実習(東文研にて)



染織品研修:閉講式で修了証を授与



彩色文化財研修:ケミカルクリーニングの実習



木材研修:  
ツタンカーメンのベッドの構造について学ぶ



国外視察:ICOM-CCメルボルン大会にてGEM-CCから6件のポスター発表が採択された



搬入を待つラムセス2世像とGEMの建設現場





--- おわりに ---

足かけ8年に及んだこのプロジェクトを成功裏に終了することができました。ひとえに、ご協力・ご支援をいただきました多くの方々のご尽力の賜物だと、関係者一同深く感謝いたします。

GEMIは2018年の部分開館、2022年の全面開館を目指しています。これまで日本とエジプトが培ってきた信頼関係をもとに、GEMが世界に誇れる博物館になるよう、これからも幾多の取り組みが両国の間で行われることでしょう。

このプロジェクトがエジプトに残した小さな芽が大きく育つことを祈ってやみません。



